

E.T.C. 「教育をタイムリーにチェンジする」



長野県総合教育センター通信

しののめ

2018/10/16
(平成30年10月号)
第114号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4 (企画調査部)

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

評議員の方からご意見を頂戴しました	1
所長協 技術・家庭科分科会を開催しました	1
題材をつくろう⑥ (家庭分野)	2
研修講座から	3

10月2日 センター評議員会を開催しました

当センターでは、諸事業の運営に関し広い立場からご意見を伺う機関として評議員会を設置しています。

当日は研修講座や生徒実習をご見学いただくとともに、センター事業をご説明し、ご意見を頂戴しました。頂戴致しましたご意見はセンター事業に反映させていただきます。

また、要旨は近日中にHPで公開させていただきます。



所長協 技術・家庭科分科会を開催しました

当センターは全国の都道府県・指定都市の教育センターや教育研究所が加盟する協議会に加盟しています。今年度は当センターを会場に9月27・28日の2日にわたり、“技術・家庭科分科会”を開催いたしました。文部科学省より調査官がお見えになり、ご講義いただくとともに、全国より約40名の指導主事が各分野に分かれて分科会が実施され発表や協議などが行われました。



題材をつくろう⑥

家庭科
技術・家庭科 家庭分野 編



トモニ先生

家庭科の授業では、みんな、製作や調理などに楽しく取り組んでいるけれど、作って終わりになってしまっている気がするなあ。子どもたちが知識や技能を身に付けながら、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てるには、どのように題材を構想したらいいのかな？



ミガコ先生

- ①学習指導要領をもとに、**題材を通して育成する資質・能力を明確に**しましょう。
- ②**題材展開の終末【学びを振り返る場面】**での、**子どもの姿をイメージ**しましょう。
- ③**題材展開の導入【生活の課題発見の場面】**では子どもの気付きやつぶやきに耳を傾け、**子どもの願いや問いをもとに、共に「題材を通した課題」を設定**しましょう。
- ④**【解決方法の検討と計画の場面】**では、**何を学ばせたいかを明確にして**実習を位置付けましょう。

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した。①**題材を通して育成する資質・能力を明確に**しましょう。

【学 年】 小学校第6学年
【題材名】 朝食から健康な1日の生活を（10時間）
【育成する資質・能力】

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
衣食住の生活 (1) ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。 (2) ア(イ) 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできること。 (3) ア(イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとどうなるかを理解すること。	B 衣食住の生活 (2) イ おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること。

【主な学習活動と留意点】

前題材からのつながり：「食べて元気 ご飯とみそ汁」
・体に必要な栄養素の種類と主な働きを理解する。 ・米飯及びみそ汁の調理の仕方を学ぶ。

働かせる見方・考え方：健康などの視点から生活を見つめ、生活経験や学んだことと関連付ける。

階	学習活動（時間）	留意点
見つける	1 毎日の朝食を振り返ろう（1）	生活の課題発見の場面 ☞健康などの視点から生活を見つめ、日常生活の中から問題を見だし、題材を通した課題がもてるようにする。 題材を通した課題：より健康な生活を送るためには、どんな朝食をとればよいのだろう。
実践する	2 いためる朝食のおかずを作ろう（7） ① 栄養のバランスを考えよう。 ② 調理の計画を立てよう。 ③ いためる調理をしよう。 ④ 調理の計画を見直そう。 ※例えば、包丁の使い方など知識及び技能の習得に課題がある場合には、確実な習得を図る。	解決方法の検討と計画の場面 ☞実習などを通して、解決に必要な知識及び技能を身に付けられるようにする。 ☞題材を通した課題と既習事項や生活経験などと関連付け、健康などの視点から、様々な工夫を考え、計画できる力を身に付けることができるようにする。 課題解決に向けた実践活動の場面 ☞身に付けた知識及び技能を活用して実践し、その過程で気付いたことなどを記録することができるようにする。 ☞見直した調理計画を基に、家庭での実践を位置付けることも考えられる。
生かす	3 朝食から健康な生活を始めよう（1） 4 題材を振り返ろう（1）	実践活動の評価・改善、学びを振り返る場面 ☞互いの考えを聞いたり伝えたりして、健康や安全などの視点から評価・改善する力を身に付けられるようにする。 ☞家庭での実践に向け新たな課題に気付くようにする。

次題材へのつながり：「まかせてね 今日の食事」
・1食分の献立作成の方法について理解する。 ・1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫する。

「毎朝の食事が、ふりかけだけじゃ栄養が足りないし、元気も出ない。健康であるためにどんな朝食がいいのかなあ？」

③【生活の課題発見の場面】では体育科での健康により生活に関する学習や、食育に関する学習など、他教科等の学習との関連を考慮し、子どもたちが**身体も心も健康でいられるよ、健康などの視点から生活をよりよいものにしてほしい**という願いがもてるようにしましょう。

「一品で、いろんな栄養素がバランスよくとれるようなおかずがあるといいね。自分でも、簡単に何か作れるようになりたいなあ。」

④【解決方法の検討と計画の場面】では、無理なく調理できるもので、一人一人が自信をもって意欲的に学習できるように配慮しましょう。「いためる調理」では、例えば、中華料理を調理する様子などにもふれ、野菜を弱火でいためると調理時間が長くなり、水っぽくなることなどに気づかせましょう。

②【学びを振り返る場面】で、表れてほしい子どもの姿をイメージしましょう。

〈振り返りシート〉「家の人はわたしの健康のことを考えて、栄養のバランスのとれた食事を作ってくれているから、ちゃんと食べられるように、規則正しい生活をしたいし、栄養について学校で勉強したことを家族にも話してあげたい。そして休みの日には、自分も、栄養のことを考えて、学校で実習した野菜いためを家族に作ってみたい。」

研修講座から

今、哲学カフェ ～より善く生きる、より善く学ぶ事への問い方～（6月23日）

この講座は、次のようなねらいで開講し、25名が受講しました。

<講座のねらい>

児童・生徒自身が「学ぶ」ということ、教師が「教える」ということに対する問いを持ち、他者と問い合い、考え合うことを通して、

○自らの実践やその背景にある思いや経験を振り返り、自己の強みや課題を探る。

○授業や学力に対する自らの認識を問い直し、授業観や学力観を広げたり、深めたりする。

<講座の主な内容>

基調の問いの提案

総合教育センター 専門主事 菅原 崇

哲学C a f e①「哲学の営みとしての教育」

～考えるという快樂～

樹徳中高一貫校 教諭 福田 肇氏

哲学C a f e②「教えの深淵」

- ・対談「問いを問うということ」
- ・講義「授業」～業を授ける～
- ・グループワーク 全体討議

哲学者 塩谷 賢氏

樹徳中高一貫校 教諭 福田 肇氏

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・考えること、自分のモヤモヤを整理して言葉にすることとはものすごく難しいけれど、「考えている」「深まっている」という実感を得ることはとても楽しく充実した営みだった。
- ・家庭環境も、持っている力も、家庭環境も、お子さんも、先生もいろいろで、私もその中の一人で、みんなそれぞれがより善くいきたいと願っていて…様々な思いを出し合える環境を作っていけるよう、私が努力しないと…と改めて感じた。

当日の様子



小学校プログラミング教育キックオフ～小学校でのプログラミング教育開始準備～（7月19日）

この講座は、次のようなねらいで開講し、43名が受講しました。

<講座のねらい（要約）>

・小学校段階のプログラミング教育について社会情勢や新学習指導要領等から趣旨や導入経緯について学び、教材研究や環境整備につなげる

・事例紹介やプログラミング体験から、プログラミング教育の推進や実践に向けたイメージを具現化し、授業実践につなげる

<講座の主な内容>

（講義）「小学校におけるプログラミング教育の理念と実践例」岩手大学教育学部 宮川 洋一 准教授

（演習）「プログラミング体験」NPO法人みんなのコード 指導者育成主任講師 福田 晴一氏

（演習）「各教科等におけるプログラミング教育」 総合教育センター 専門主事 宮原 啓一

◆◆◆感想の抜粋◆◆◆

- ・模擬授業でプログラミング体験することは、子どもと同じ感覚で楽しめたり驚いたり興味をひきつけられる体験でした。
- ・小学校でどの程度の学習を目指すのかがはっきりと分かったことがとても大きいです。
- ・自分自身の授業においてプログラミング的な思考をしているのはどこなのか考えていきたいです。
- ・私自身が先生方とプログラミング体験した時の感動やひらめきを子どもたちにも体験してほしいです。

当日のスライドから

プログラミング教育とは…

○子どもたちが、コンピュータに意図した処理を行うように指示(プログラミング)する体験を通して、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などの力を育むことです。コーディングを覚えることが目的ではありません。

「〇〇」をプログラミング

プログラムとは…

コンピュータの動きを決める「命令」のこと

プログラミングとは…「プログラムをつくる」こと

・コンピュータを意図したように「動作」させるには、コンピュータが分かる言語(プログラミング言語)でコンピュータが分かる語順である必要がある

小学校における プログラミングの活動の要点

- ・子どもの発達の段階や実態に合致する
- ・計画的にプログラミング的思考を育成していく
- ・コンピュータに意図した処理を行わせる体験をする
- ・コンピュータやプログラミングの仕組みに「気付き」
→ コンピュータと人間の活動 **それぞれのよき**に気付き
- ・活用していることとする態度を涵養する

導入の考え方(先行事例より)

- ・「ゲーム的な活動」からプログラミング的思考を育む
- ・従来の学習活動をプログラミングの活動に置き換える
- ・プログラミングを **子どもの表現ツール**として
- ・学習内容をプログラミングの思考で **橋渡し**